

自己評価の結果について

平成29年度

(公表シート 様式 4)

学校法人旭川カトリック学園 留萌聖園幼稚園

1. 本園の教育目標

キリスト教の精神と理念に基づいて、他者に対する思いやりと自己犠牲の精神を育む。幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びを通して周りの世界に興味をもち、探索し、思考する過程を大切に教育を目指している。また、幼児期にふさわしい生活が展開されるように、園児と教師の間の信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活、友達と十分にかかわって展開する生活がなされるように配慮した幼児教育を目指している。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

平成30年度からの新制度移行に向け、園としてのより質の高い教育を目指し、保育者一人一人の技術の向上と自己研鑽に努めて行く。新教育要領の理解を深め、時代に合った幼児理解と保育を展開して行ける様に研修を行う。「いのちをいただくってどんなこと？」を年間テーマに置き、食を通していのちの大切さを学ぶ機会を持つと共に、自分のいのち、家族や周りの人々のいのち、世界中の困難の中に生きている人々のいのちについても考えて行く。

3. 評価項目の達成及び取組み状況

評価項目・目標	取組み状況
1 保育の計画性 保育内容及び指導の在り方等を精査し、指導計画を策定し、教育内容の充実を図る。	昨年度の反省を元に、日々の保育や行事を行う上での経験不足による差が生じないように、全体での打ち合わせ、細かい配慮が必要な部分の共通理解を徹底した。また、経験年数の浅い担任にはベテランの保育補助を配置し、担任が不安や負担を感じない様に配慮した。年間の保育計画に沿って進めて行ける様に、学期毎に報告をし合い、行ったことをお互いに確認し合うことが出来る場面を多く作った。畜産動物の見学は、子ども達にとっては良い経験になったが、見学だけで満足してしまい、年間テーマの『「いのち」をいただくってどんなこと？』にまで内容を十分に膨らませることが出来なかった事が反省としてあげられた。
2 保育の在り方、幼児への対応 安全管理の徹底、幼児理解の向上、子育て支援その他の充実を図る。	安全への配慮の面では、今年は大きな事故やケガの発生はなく、昨年度の反省が生かされていたと感じる。しかし、年々増加するアレルギー対応や特殊な対応を必要とする持病等に対し、職員の知識が十分でない事から、いざという時に慌ててしまう事もあった。職員全員が同じように対応できるように、日頃からの研修、訓練、情報交換が必要だと感じる。なお今年度は職員の消防訓練、救命救急講習を実施している。園舎・園庭・教会などの経年劣化による危険箇所も時々見られる事から、安全管理にもより注意・徹底をして行く。昨年同様、子育て支援では「預かり保育」に関しては、幼稚園としては十分に役割を果たせていると感じる。しかし、様々な子育ての悩みを抱える保護者に対しての相談窓口としての役割は、まだ十分に機能していないと思われるので、今後は、保護者の要望も取り入れながら、引き続き子育て(発達)相談の形での支援も行っていきたい。
3 保育者としての資質 保育専門家としての能力、姿勢、責任等資質向上を図る。	昨年の反省を踏まえ、保育者研修は分散して色々な内容を学び、持ち帰って報告し合う形を心掛けた。ただ、個人個人からの報告は出されたが、それらを皆で話し合い、共有するところまでの時間がなかなか取れなかった事から、今後は改善を図りたい。保育の内容に見られるマンネリ化、創意工夫が足りない部分が目立つ。保育者自身ももっと考え、工夫し、子どもが喜ぶものを提供して行ける様に、一層の研究・研修と、学んだ事を生かせる場を作って行く必要がある。また、ピアノなど技術的な向上と、日常的に使える手遊びなどのスキルアップに取り組む。

<p>4 保護者への対応及び家庭との連携</p> <p>園児に関わる情報の発信と受信、保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応を図る。</p>	<p>園での子どもの様子、お知らせ等は書面やホームページの充実でより周知されて来ていると感じる。また、行事後の保護者アンケートを基に取り組みの見直しや改善を図る事で、概ね理解を得られる状況になって来ている。個人情報管理は、現在はしっかりと守られている状況である。しかしながら緊急時の一斉連絡のためのメール配信、また、送迎バスの遅延を知らせるメール配信システムなど、便利さをどこまで取り入れて行くべきか、悩むところである。給食は保護者からの要望が大変多いが、市の給食センターを利用できない事と、留萌市内に幼児の給食サービスに対応できる業者がない等、なかなか導入は難しい状況である。満3歳児保育に関しても、とにかく保育者の人手不足が大きな課題である。幼稚園は「教育」機関である事を第一に考え、いくら需要があったとしても、満3歳児保育が単なる託児所状態にならないために、その年齢に合った教育環境をきちんと整えてから始められる様に、前向きに検討していく。</p>
<p>5 地域社会との連携</p> <p>地域の自然や社会との関わり及び小学校との連携を図り、地域開放の努力をする。</p>	<p>地域の方々との関わりが少なく、なかなか「交流」とまでは行かないのが現状である。高齢者施設への訪問等は大変喜ばれてはいるが、もっと自然形で高齢者の方々とのふれ合う事が望まれる。地域住民の方との関わりも、若い保育者の中には普段あまり面識のない人との会話を苦手とする傾向も見られる事から、そういう機会を多く作る事で、誰とでも、また保護者とコミュニケーションをとる上での苦手意識も克服して行ければと思う。幼小連携はまだまだ希薄さを感じているが、小学校の先生から、年長児の「縄跳び頑張り表」へのチャレンジ精神が、入学後も継続されていて、大会で良い成果を収めているとお話しを受け、これもひとつの連携の形として今後も続けて行く。</p>
<p>6 研修と研究</p> <p>研修・研究を積極的に行い、専門性を高める努力をする。</p>	<p>個人個人の自己評価の結果を見ると、一時期に比べ「自分の保育の悩みを他の保育者と共有・相談出来る」と感じている保育者が多くなって来ている。職場内が話しやすい雰囲気、また相談出来る信頼関係が築かれている事が感じられる。しかしながら、自分自身の専門性や研究・研修に関しては、休日にも研修会等に数多く参加しているにも関わらず、自己評価は低いことから、学びを生かす保育の「場作り」、学びを発展させる保育の「工夫」等を考えて行く必要がある。免許更新講習は該当者が順次取り組み、更新が進められている。</p>
<p>7 情報公開</p> <p>保育の現状等や自己点検・評価の結果等を個人情報の保護に留意しつつ、積極的に園便り等で情報公開する努力をする。</p>	<p>園だより・クラスだより、また必要に応じて出されるお知らせで家庭との連絡をはかり、幼稚園の様子などを情報公開する様に取り組んでいる。特に感染症・伝染病等の発生時には、緊急速報として随時状況をお知らせしている。また、昨年度の学校評価の結果は、学園ホームページで閲覧出来る様になっている。園の保育中の様子などは、不定期ではあるがブログにて公開し、保護者の閲覧も増加して来ている。昨年課題として上げられていた、園の近隣住民の方々に園の活動を知っていただくための広報誌配布案は、なかなか着手できずにいるが、月1回また行事時に、園長が発行している折り込みパンフレットにより、園の活動のごく一部分ではあるが、市民にも周知されていると思われる。</p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

昨年度に引き続き、経験年数の浅い保育者が多かったため、補助教員の強化、また、技術的な部分(ピアノ等)をサポートするための教員も配置する事により、学年、また担任による保育の差が出ないように取り組んだ。また、今年から新たに外部講師による「運動教室」を開始したが、子ども達にとっても、また保育者にとっても大変実りのある活動となった。自園の保育者だけでは、なかなか指導するのが難しく、また怪我などの心配から、敬遠されがちな器械運動なども積極的に取り入れる事が出来た。これらは職員の不安を少しでも取り除くことになり、安心して保育できる環境に繋がった事で、子ども達に対しても良い影響を与えることが出来たと感じる。また、マンネリ化していた「食育」の取り組みも、今年は『いのちをいただくってどんなこと?』をテーマに、畜産動物の見学に行き、直接動物に触れてみたり、採卵なども体験し、野菜作りとは違った観点から食育について学ぶことが出来たと感じている。ただ、もう少し深く掘り下げる必要があったと感じている保育者も多い事から、次年度にも引き続き取り組み、せっかくの機会を活かして行きたいと思う。季節の行事は、毎年趣向を凝らし、前年と同じような内容にならないように工夫が見られる。以前は準備のために残業なども多かったが、早めの立案、準備、また自分だけで抱え込まず、職員みんなで仕事を分担し、手分けして行う事も増えて来ているので、今後はもっと工夫する事で効率よく仕事を進められると思われる。母親の就労が増加するに伴い、幼稚園の「子育て支援」の役割は、今後ますます大きくなるが、来年度からの新制度移行により、まずは保育

の質の向上、そして、保護者の望む子育て支援(預かり保育の時間延長、土曜・振替休日の預かり保育、給食の導入、満3歳児保育など)を、人員や環境がきちんと整った上で、順次取り入れて行ける様に、検討・準備を進めていきたい。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組み方法
安全管理	引き続き、保護者参加の防災訓練を実施し、保護者にとっても非常時の危機管理や対応を再確認する良い機会になっていることから、今後も継続して行く。また、園児を対象とした予告無しの避難訓練、状況設定をいろいろ変えての避難訓練も引き続き実施していく。職員の救急講習、消防訓練、不審者対応の訓練なども、隔年で実施する。園内外の遊具の点検は学校安全計画に沿って実施がより徹底された事から、遊具の安全管理と誤った使い方による事故やケガの防止にも努めていく。送迎バスの事故防止・安全運転の徹底に努める。
特別支援教育	支援を必要とする子ども達が年々増加の傾向にある事から、引き続き特別支援教育の在り方、取組みに力を入れて行く。支援を必要とする幼児への関わりのみならず、クラス全体・園全体への指導方法を、実践を通して学んで行くと共に、幼児の発達に関わる諸機関との連携の強化、小学校へのスムーズな引き継ぎの面で、保護者の理解を得るための話し合いの場を積極的に持つ。子ども達が安心して教育を受けられるための支援と、幼稚園としての役割を果たして行ける様に努める。(昨年度に引き続き)
園に対する保護者の満足度の把握	本学園の建学の精神に則った独自性に充分配慮しつつ、子育て中の保護者が期待する幼稚園像を把握し、カトリック幼稚園に求められている事を確認する事で、本園の方向性を再認識して行く。また、子育て中の保護者が幼稚園に対し、具体的に何を期待しているのか、あるいは子育ての悩みや問題にも向き合い、様々な情報に惑わされる事なく、安心して子どもを通わせることが出来る環境にして行く。来年度からの「新制度移行」にあたり、保護者負担が増加する世帯もある事から、それに伴う保護者からの期待や要求も大きくなる事を想定し、職員一人一人が子どもにも保護者にも満足、納得してもらえる保育を心掛けながら、協力して、より良い保育を行って行く。子育て支援に関しては単なる過剰サービスではなく、本当に必要な支援(親にとっても子にとっても)とは何かをよく考え対応を検討して行く。正しい情報提供と、保護者の不安や不信感を払拭出来る様、積極的に相談の場も作って行きたい。(昨年度に引き続き)

6. 学校関係者の評価

1. 『保育の計画性』に関しては、「やや満足」から「満足」の回答であった。今年度の取り組みの「いのちをいただく」について、普段なかなか体験する事の出来ない畜産動物の見学を実施したことには、大きな成果が感じられたとの評価が多かった。また今後も継続することへの期待、併せて野菜作りも継続して行って欲しいとの要望も複数あった。「食育は広範囲な内容を含むので、計画を構造化して検討する事が重要」とのご意見もいただいた。経験の浅い教員(職員)に対する配慮に関しては、補助教員のフォローにより、クラス・学年の差はそれほど感じなかったとの意見が多かった。保育者不足は園にとって大きな課題ではあるが、今後も教諭および補助教員の確保に努めたい。新たな取り組みとして開始した外部講師による運動教室は、「少人数(1クラスずつ)の丁寧な指導で、子ども達がいろいろな運動を楽しく体験できる良い機会になっていると感じる」等、評価された。

2. 『保育の在り方及び対応』に関しては、概ね「満足」の回答であった。「特別支援の必要な子、持病のある子に対する関わり方、声掛けや配慮に、安心して子どもを預ける事が出来た」「ケガの初期対応(対処)が良いと病院で言われて嬉しかった」など園に対する信頼の評価が多くあった。しかし全ての職員に、安全管理の知識や技術が十分であるとは言えないので、更なる研修、知識や技術の習得や非常時の訓練が望まれるとの意見もあった。預かり保育が充実してきている(預かり保育日数が増えた)事への評価も多数あった。今後も保護者からの要望を聞きながら、幼稚園として(教育機関として)の果たすべき子育て支援の役割を精査し、本当に必要なものは何かを見極めて取り入れて行く事が大切、との意見もいただいた。

3. 『保育者としての資質』に関しては、「やや不満足」から「満足」とばらつきが見られた。「どの先生に聞いても、自分の子どもの事を理解・把握してくれている」「ピアノの上手な先生が子ども達のリクエストに応じてくれるので、歌う事が好きになったと感じる」などの評価が得られた。しかし、補助教員のサポートによりクラス・学年差を感じない保育であると評価を得たのに対し、個々の保育の差はやはり目に付く部分も多かったとの声があった。「技術的な部分は、仕事もあって大変とは思いますが、子どもの前に立つ保育者として努力して欲しい」「参観日などで、子どもに先生の説明が伝わらず、子どもも先生も困っている様子が見られた」などの厳しい指摘もあり、今後に向け真摯に受け止め改善・向上して行けるよう取り組んで行く。保育研修会への積極的な参加など、「幼児教育に携わる人としての姿勢・責任感の意識を高める努力を感じる」との評価もあったが、「研修で学んだ事の共有・情報交換をする事が重要」「日々の自己研鑽も含め、計画的な研修体制の構築を望む」等の意見もあった。

4. 『保護者への対応』に関しては、概ね「満足」の回答であった。「どんな小さな事でも電話や手紙で知らせてもらえて安心できる」「ベテランの先生によるフォローがしっかりと出来ているのが感じられ安心できた」など、保護者の不安解消に繋がっていたことが評価されていた。緊急時の連絡網については、「兄弟の連絡は1本にすると良い」等の意見があったが、一斉メールに関してはそれほど多く要望は上がっていなかった。(電話連絡網でもスムーズに伝わっているからという事もある。)給食に関しては、全面的な給食化を望むと言うのではなく、「週に1回程度、みんなで同じものを食べることで偏食を無くす」、「学校給食の「量」に慣れるため」等の理由での、部分的な導入を希望する意見が多かった。「食育」の面からも、前向きに検討していきたい。満3歳児保育への要望も、教育機関として必要な準備を整えた上で、「早期教育」を望む保護者の声に対応出来る様、検討を進めていきたい。

5. 『地域社会との連携』に関しては、「やや満足」から「満足」の回答であった。高齢者施設を訪問してのふれ合い行事は一定の評価を得ている。しかし、例えば運動会の総練習を見に来てもらう、普段の園児の姿を見てもらう(保育参観)など気軽にお誘いする事が出来るのでは?との意見があった。幼小連携では「縄跳び頑張り表」の取り組みのように、園での活動がそのまま小学校で活かされているのを感じるという評価が複数あった。学校訪問は「いろいろな学校に行つて欲しい」「見学だけではなく、学校行事“〇〇小まつり”などに参加出来ると良い」など、就学前の学校訪問の機会を増やし、期待を持てるような取り組みを望む声があった。これについては園側だけでは決められない事なので、学校とも相談しながら検討して行く。また、「地域の方々との連携はなかなか難しいものだが、行事的な事だけではなく、大人同士(職員の、近所の方との会話からでも…)のお付き合いがまずは大切だと思う」とのアドバイスもいただいた

6. 『情報公開』に関しては、概ね「満足」の回答であった。特に感染症等が出た場合の情報公開が速く、また、感染拡大にならないための園としての徹底した対応が、親にとって大変助かっている、との評価をいただいた。家族に罹患者がいる場合の出席停止、マスクの着用など、『やり過ぎ』と感じている保護者もいるかも知れないが、それによって臨時休園、学級・学年閉鎖等にならないで済んでいる事は、特に仕事をしている母親にとっては非常に助かっている、との声も多い。園のたよりは「見やすい誌面で、月の予定、準備するものなど細かく情報が載っていて、時間に余裕を持って準備できる」、「クラスだよりは、あまり園の事を話さない息子との会話のきっかけになっている」「ブログで幼稚園の様子が見られるので、楽しみにしている」などの感想が寄せられた。

7. 『その他』として、「父母の役員や係活動は、仕事をしていたり、小さい子がいる保護者にとっては少し大変という声もある」「2学期の、参観日・スポセン・運動教室等々、親が見に行く機会が多く、行けない日に子どもをがっかりさせてしまったので、どれかにまとめてもらえると助かる」「夏の水遊びの機会が少ないので、夏休み前にも行えると良いのでは…?」等の意見があった。園の活動に積極的に参加したい保護者、園の様子をどんどん見に来てたい保護者と、仕事などで負担を感じている保護者との温度差もあり、一概にはどちらか決められないが父母の会活動については、出来る事を、出来るときに、出来る人が、強制ではなくあくまで自由意思で行う事を目標に、協力していただける範囲内で運営して行けるように、内容や取り組み方を検討する必要があると感じる。小学校に入学し、「お話しが聞ける聖園幼稚園卒園児と言われる」その背景には、キリスト教の精神と理念に基づいた教育が、継続して進められている当園の「お祈り・親切・我慢・ありがとう」の精神が活きていると感じる。いろいろな流行の教育法もあるが、良い所は取り入れながら、「子どもにとって大切なもの」「保護者にとって安心・信頼できる教育の場」が、この長い伝統の中に引き継がれていると信じ、これからも「聖園らしさ」溢れる幼稚園を目指して行きたい。

7. 財務状況

大手監査法人である太陽有限責任監査法人(東京)の監査を受け、適正に運営されていると認められている。また、法人本部の財務状況報告により法人内各幼稚園及び学園全体の財務状況は職員の間にも周知されており、共通理解に立って効率的な運営に努めている。

